

健康長寿の まちを目指して

るもいコホートピア構想



るもいコホートピア構想

コホートピアを目指す 健康長寿のまちづくり その③
「医師、医療関係者にとって魅力ある環境づくり」
 高齢化と病気の变化は、いま医療関係者に新たな対応を迫る厳しい現実を突きつけています。

少子高齢化に伴い、人口減少の時代を迎えました。留萌市も例外ではありません。同時に高齢者の増加に伴い、介護を必要とする方が増えています。

高齢化は、生活習慣病の増加という疾患の質の変化をもたらしました。その結果、疾患の慢性化と介護需要の増加が懸念されています。

また、同時に医療費の削減という大きな潮流が医療環境を直撃し、地域の最前線で「苦労されている、第一線の医療関係者にとってきわめて厳しい将来が予想されています。

目を転じると、たとえば未治療糖尿病患者が多く存在し、重篤な合併症予備軍がとて

心配です。

るもいコホートピアは、医療を提供する側にも受ける側にも、地域に継続的で安心、安定した医療、福祉環境をつくっていきけるような「連携」のあり方を提案し、問題解決の一助となるよう取り組みを進めていきます。

また、今年4月に、留萌市立病院で診療を行いながら、医学博士を目指す新しい形の大学院制度（地域連携医療大学院）を創設し、医師にとって魅力的な環境づくりと、継続的な診療体制の構築、さらには、留萌の地から新しい医学研究の発信を目指していきます。

（札幌医科大学教授 小海康夫）



国立保健医療科学院疫学部

室長 佐田 文宏

（※写真左端）

留萌の皆さん、こんにちは。国立保健医療科学院疫学部の佐田です。健康の駅が7月にオープンし、るもいコホートピアが少

「メタボ対策への取り組み」

でも皆さんの身近に感じていただければ、大変嬉しく思います。ただ、私は、昨年より埼玉で働いているため、あまり留萌に行くことができません、少し残念です。遠くからでもできることで、留萌に貢献できればと思っています。

我々疫学部では、昨年、留萌市をはじめ全国各地で特定保健指導のための研修会を開催してきました。

最も効果的な保健指導プログラムの開発に取り組み、ナビゲーションソフト（愛称・さるナビ）の開発を行っています。まもなく試作品が完成するので、近々健康の駅に

も配布させていただきます。また、保健指導に役立つ学習教材集も下記ホームページで公開していますので、皆さんご利用ください。

毎月目標を立て、体重、腹囲、歩数を記録する「がんばり記録」、メタボ度チェックシートなどがあります。このような教材が、留萌の皆さんの健康に少しでも役立てばと願っています。

これからも健康の駅を中心とした健康の輪を皆さんと一緒に広げていきたいと思っています。

http://www.niph.go.jp/soshiki/ekigaku/index_j.htm

地域連携医療大学院プログラム

